

工学部

生命工学科-----77名	応用分子化学科-----46名
有機材料化学科-----41名	化学システム工学科---35名
機械システム工学科--116名	物理システム工学科---56名
電気電子工学科-----88名	情報工学科-----62名

常に科学技術の最先端を担い、時代をリードする人材を育成する

アドミッションポリシー(学生受入方針)

工学部の目指す教育は、大自然に対する真理の探究とモノ作りマインドを持った創造力豊かな学生の育成です。様々な考えを持った人たちと対話ができ、あるときは興味のあることに時間を忘れて打ち込むような情熱を持った学生の入学を希望します。

最先端の科学技術を学び世界で活躍しよう!

地球温暖化や少子高齢化、さらには安全安心社会の実現という諸課題を解決するために、グリーンイノベーションやライフイノベーションという社会を大きく変える科学技術の推進が叫ばれています。わが国が科学技術先進国として世界をリードする立場にあることを踏まえ、本学は、基本理念「使命志向型教育研究-美しい地球持続のための全学的努力-」を標榜し、その担い手となる人材育成に邁進しています。

工学部では、工学分野の科学技術に関する基礎及び専門的知識・技術を教授し、解決すべき諸問題の本質を見抜く能力を涵養することで、持続可能な社会の実現に尽力できる幅広い教養と専門知識を有する人材の養成を目的としています。そのため、全学および工学部横断的な教養教育を行うとともに、工学の幅広い分野をカバーした8学科において、科学技術の基礎教育や専門教育を推進しています。

特に、工学の基本である「ものづくり」の能力を養うため、実学に重点を置いたカリキュラム編成によって、課題探求・解決能力を持ち社会の要請に主体的に応える人材、豊かな心と高いコミュニケーション能力を備え国際社会において活躍できる人材、常に科学技術の最先端を担い、時代をリードする人材を養成します。

message

工学部長
永井 正夫 教授



THE FACULTY OF ENGINEERING



学びの目的・学びの特色

工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎及び専門的知識・技術を教授し、解決すべき諸問題の本質を見抜く能力の涵養とそれらを持続可能な社会の実現に生かすことのできる幅広い教養と専門知識を有する人材を養成することを目的としています。

4年間の学びの流れ

教育課程は、学問分野の特色に応じた11の課程(コース)に分かれており、それぞれの目的と理念に基づいたカリキュラム編成になっています。4年間で学ぶ科目群は、「全学共通教育科目」「自然科学系基礎科目・専門基礎科目」「専門科目」からなります。4年次では卒業論文を履修し、自主的・主体的に研究を行う能力を養います。3年までに研究者、技術者に求められる基盤を作り、専門科目と卒業論文により最先端の技術開発を担う能力を育成する教育を行っています。

1年次	2年次	3年次	4年次
	外国語	融合科目	
共生人文社会科学 スポーツ健康科学 科目		共生人文社会科学	卒業研究
自然科学系基礎科目・ 専門基礎科目		専門科目	

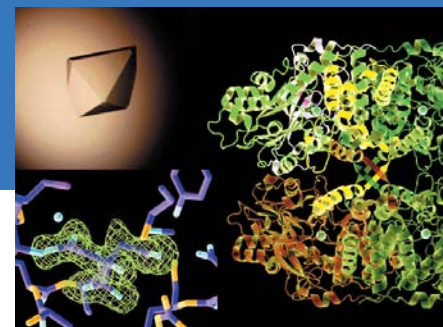
▶カリキュラムの詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.tuat.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html>

生命工学科

Biotechnology and Life Science

日本の大学で初の生命工学科 先進的な教育課程でエキスパートを育てる



エキサイティングな最先端の研究に取り組む

生体機能工学/応用生物学

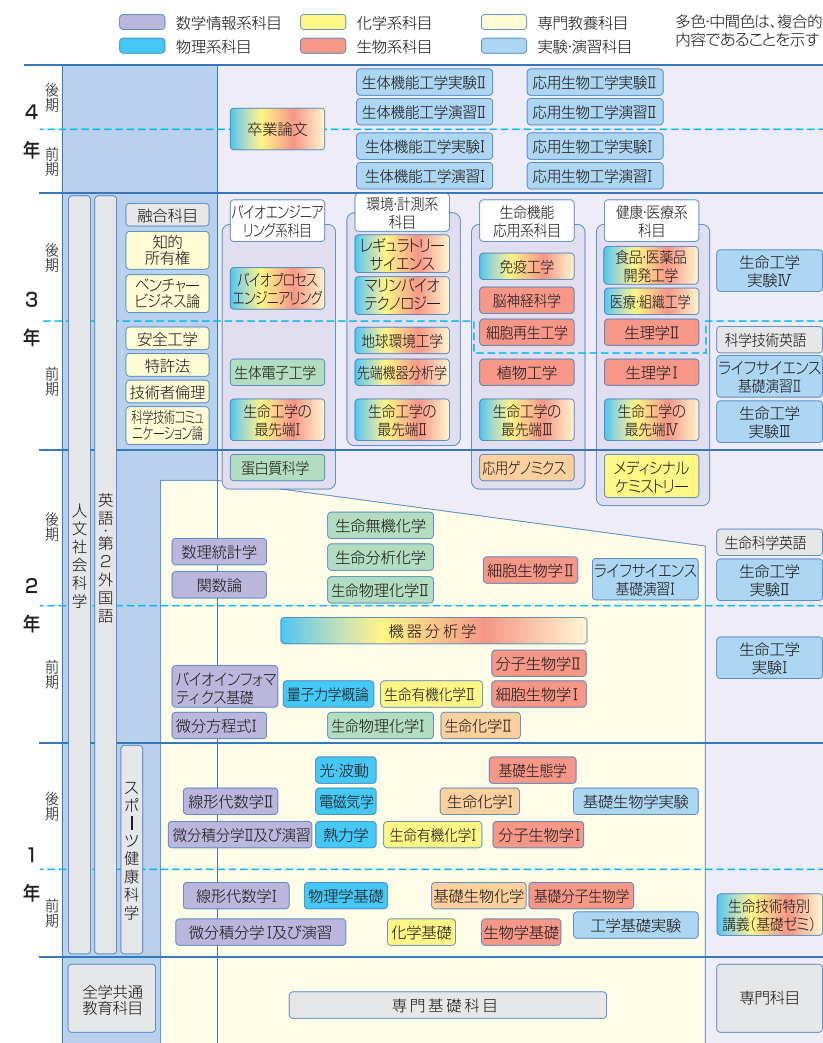
細胞機能工学	生命分子情報科学	生体分子構造学
細胞分子工学	植物情報工学	ナノ生命工学
生命分子工学	生体電子工学	分子生命化学
生命有機化学	生体分子プロテオーム	海洋生命工学

本学工学部の生命工学科は、日本の大学で初めて設置された生命工学科です。先進的なカリキュラムの下、生命工学のエキスパートたる優れた人材を世に送り続けてきました。

生命工学は最先端の研究分野であり、他の研究分野と融合を繰り返し、新分野を創出し続けています。その代表例がナノ・バイオテクノロジーです。半導体工学、電気電子・有機材料工学、機械工学などの最先端研究分野であるナノテクノロジーとバイオテクノロジーが融合したこの分野は、今後様々な新産業を生み出す大きな可能性を秘めた、きわめてエキサイティングで社会的意義の大きな研究分野といえます。

本学科では早くからこの分野に注目し、国際的にも先駆的な研究を進めています。また骨粗鬆症や歯周病などの遺伝子解析・治療法開発、クローン動物の作出、マリンバイオテクノロジー、植物バイオテクノロジー、DNAチップ、バイオエレクトロニクスといったユニークな研究分野で次々と世界レベルの研究成果をあげています。

生命工学科のコースツリー



STUDENT'S VOICE

多彩な領域の知識を習得することで、研究に多角度から切り込めます。



花田 修明さん

4年
広島大学附属福山高校出身

もともと幼いころから「ものづくり」に興味があったこと、高校時代に生物の勉強に魅力を感じたことがあり、生体材料を創造する「生命工学科」であれば、その両方を学べると考えました。農工大を志望したのは、日本で最初生命工学科を設置した大学だと知ったからです。

本学科では、材料化学、生命科学、食品工学など多彩な領域を学ぶことができます。所属研究室でも細胞工学、再生工学、食品関係など幅広い研究に取り組んでおり、研究室内で積極的に情報交換を行って研究を多角度から進めることが可能です。

私は医療組織工学に興味があり、とくにさまざまな系譜の細胞へと分化できる胚性幹細胞(ES細胞)を用いて、インスリンを産生する細胞への分化誘導法の開発を試みています。これによって難病のひとつ1型糖尿病の根本的治療の可能性が開かれるのです。

これからも研究を続け、医学の発展に貢献したいと考えています。

OB&OG's MESSAGE

人々の生活の安全につながる仕事に誇りを感じます。

現在勤務している研究所では、国民の健康と生活環境の維持・向上のため、医薬品や食品などの安全性・有効性を確保するための試験・研究・調査などを行っています。そのなかで私の主な担当は、食品用器具・容器包装、玩具などの規格基準設定および試験法の開発や市販製品に含まれる化学物質の実態調査です。

大学の研究室では、植物が有するアントシアニンという色素について研究していました。大学での研究内容と現在の仕事と完全に一致しているわけではありませんが、学生時代に得た技術と、最後まであきらめずに根気強くやれば納得できる結果を導き出せるという経験は、社会人になった今でも生かされています。行政に関わる現在の仕事は、人々の生活の質の向上や安全性の確保につながっており、自分の仕事にやりがいを持って日々取り組んでいます。

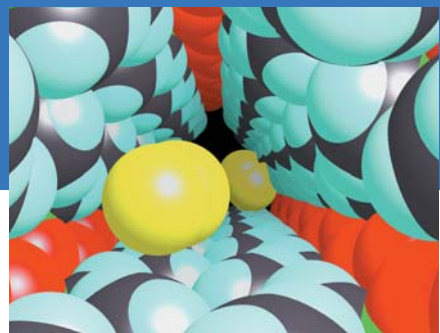
阿部 裕さん(平成20年度卒業)

国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部



応用分子化学科

Applied Chemistry



最新研究設備の整った環境で
分子レベルの世界を探求していく

現象を原子、分子レベルで理解し、そして応用する

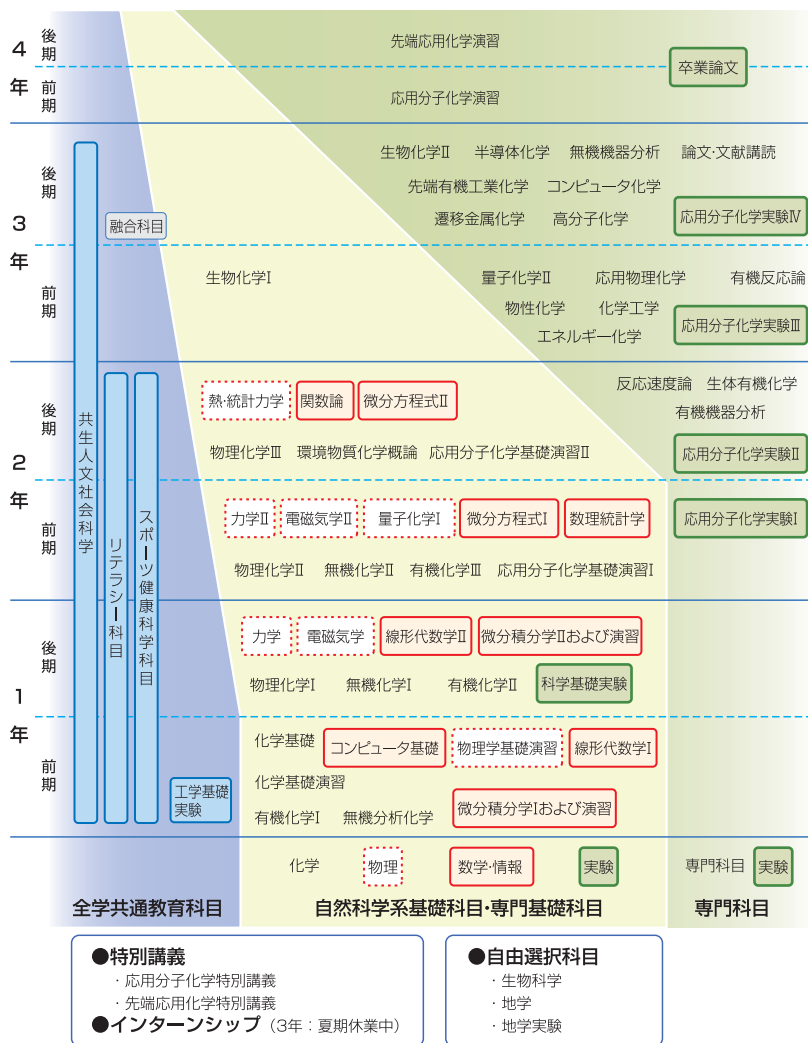
先端応用化学 分子変換化学 光電子材料化学 分子設計化学
無機固体化学 電子エネルギー化学 分子触媒化学

コンピュータを駆使した分子設計や磨きぬいた感覚で有用物質を合成したい君。半導体化学、電子化学、有機合成、触媒化学、材料化学、ナノテクノロジーなどに興味を持つ君。応用分子化学科は諸君を歓迎します。

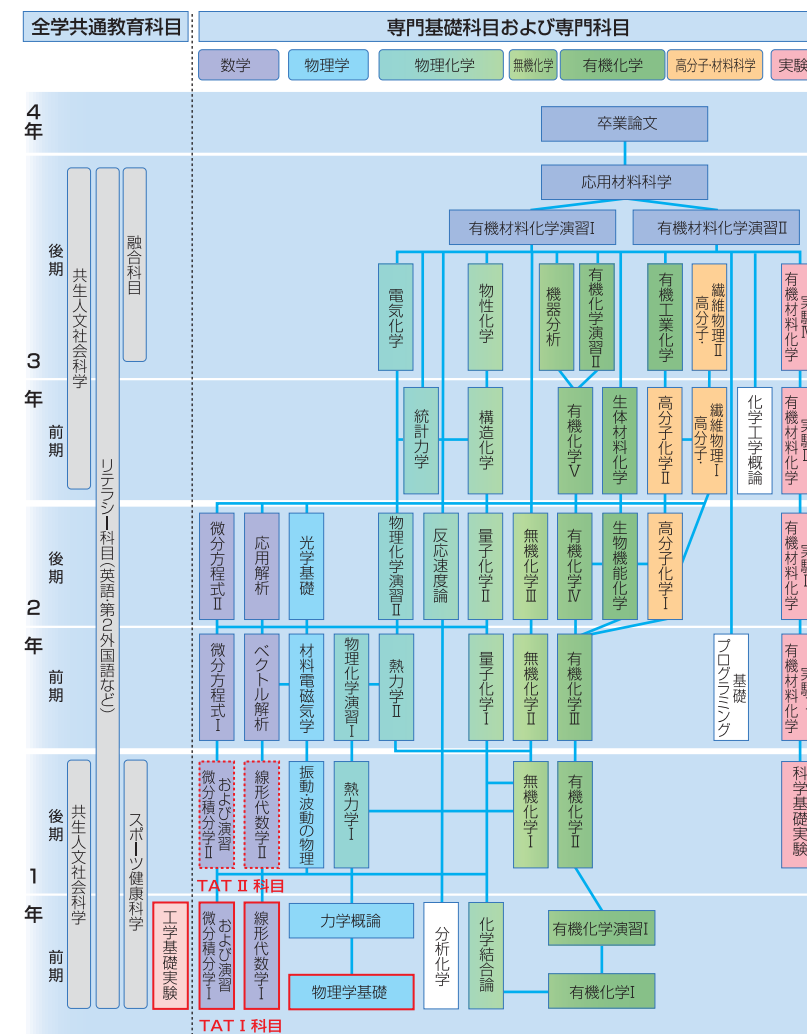
現代科学技術の発展はとどまるところを知りません。今日の最先端も明日は旧式になります。原子・分子レベルから理解する化学のエッセンスだけが新鮮な泉のように諸君の創造源となります。本学科では、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学の広い範囲にわたるバランスの取れた基礎学力習得と、最先端分野の学習・実験により、化学のあらゆる分野で研究開発を進めるために必要となる独創性と応用力を養成する教育システムを用意しています。

原子・分子レベルで現象を考えることは本学科の大きな特徴です。基本原理を身につければ科学技術のいかなる動向にも対応でき、諸君自身で新しい分野を開拓することも可能となるからです。私たちを取り巻く世界では、さまざまな構造を持つ数多くの物質がお互いに影響を及ぼし合い、多様な現象を引き起こしています。社会の持続的発展のために今ほど化学が注目されている時代はありません。本学科の研究成果や卒業生の活躍は国内外で高い評価を得ています。私たちと一緒に原子・分子を制御し、人類の課題に挑戦しようではありませんか。

応用分子化学科のコースツリー



有機材料化学科のコースツリー



有機材料化学科

Organic and Polymer Materials Chemistry



有機材料とその利用法の観点から
現代社会の持続的発展に貢献する人材を育成

人と自然の豊かな共存のための有機材料研究

有機機能材料化学 高分子材料合成 機能材料プロセス
有機ハイブリッド材料 有機エレクトロニクス
機能材料数理 インテリジェント材料
バイオマテリアル

私たちの日常生活にとって、有機材料は必要不可欠なものです。日用品はもちろん、情報化社会におけるデバイス材料、エネルギーの面では太陽電池や燃料電池の心臓部の材料、その他医療バイオ材料など、現在の高度技術化社会の担い手となっています。一方では、有機材料は化学物質であり、その利便性と同時に、自然界や人間の社会に負荷を与えていることも事実なのです。

本学科ではこのような状況に対応し、現代文明社会の持続的発展に貢献できるような教育研究を展開していきます。それが繊維材料に端を発し、一世紀以上の期間、有機材料の教育と研究を続けてきた本学科の責務なのです。実績のある高機能・高性能有機材料の創製・開発に加え、製品のサイクル全体の環境負荷を縮小できる有機材料とその利用法の開発や、化学物質のリスクの科学的な評価と適切な使用といった、化学物質のもたらす便益とリスクを判断し、実効的な解決策を策定できる素養の育成などを含む教育研究を行います。

STUDENT'S VOICE

高校から興味深かった分野について
研究に明け暮れる充実の毎日です。



小田切 達也さん
4年
神奈川県立秦野高校出身

農工大には化学系の学科がいくつかありますが、応用分子化学科は、とくに幅広い分野の化学を取り扱っており、また私が最も興味を持っていた「遷移金属」について研究できる環境もあったので進学を決めました。実際に大学で学んでも興味深い知識を得ることができ、4年生の研究室では「可視光により促進されるトリオカルゲン白金-異種遷移金属ヘテロ二核錯体の還元脱離反応」をテーマに研究に取り組んでいます。

私は希望していた分野の研究室に所属し、毎日研究に明け暮れています。研究室は日常生活の場となっていて、各個人が自分の研究について悩むこともあれば、似たようなテーマを持つ学生が相談し合うなど、それぞれが考えて行動できる「成長の場」です。

研究テーマをより詳しく掘り下げたいので、卒業後は大学院への進学を予定しています。将来は研究室で培った技術を発揮できる研究職の仕事に就きたいです。

OB&OG's MESSAGE

自分のアイデアが反映された薬の完成が夢です。

化学メーカーで医薬品、農薬、有機材料などを取り扱っています。そのなかで私は、医薬品の開発研究(対象化合物の合成ルートの検討や反応のスケールアップなど)を担当しています。自分で合成のルートを考えて薬が市場に出ることが学生時代からずっと憧れている夢ですが、医薬品は市場に出るまでの時間が長いので、自分のアイデアが反映されるかが分かるのもまだまだ先のこと。現在は自分の夢を叶えるために頑張って研究するだけです。

大学では、昨年ノーベル賞を受賞したカップリング反応と同様に金属触媒を用いた有機合成の研究を行っていました。いまは仕事で毎日のようにフラスコを振ったりしていますが、思えば研究に追われる日々は学生時代から変わっていません。農工大時代の研究室の延長線上で仕事している感じです。

大竹 陽介さん(平成18年度卒業)
日産化学工業株式会社 物質科学研究所合成研究部



STUDENT'S VOICE

化学とともに物理の知識が必要な学科。
物理に魅力を感じる人にはオススメです。



高橋 裕さん
3年
埼玉県立春日部高校出身

ずっと好きだった「物理」と「化学」の両方の知識を生かせる学問を調べているうちに材料系の学科にたどり着き、さらに「高分子」に興味があったことから最終的には有機材料化学科を選びました。もちろん化学系の学科であり、有機化学や高分子化学も学びますが、力学、熱力学、電磁気学、光学など物理系の授業もかなり多く入ってきます。私のように化学とともに物理も好きな人には、かなりオススメの学科です。

物理化学系の学問の魅力は、いろいろな式を導き出したりすることで、その物理現象が起こる原因を理解できるところだと思います。そのために応用的な数学も必要になりますが、物理を学ぶために数学に取り組むのは苦ではありません。

また、医療系有機材料の研究を行う研究室もあり、生化学などの生物系についても学ぶことができます。この学科で身につけられる知識を積極的に吸収し、将来は「環境にやさしく、人に役立つもの」を開発することが目標です。

OB&OG's MESSAGE

日々の業務が人々の生命へとつながっています。

高校時代に身の回りの製品はすべて「材料」からできていることに気づき、その材料が持つ「未知の可能性」に憧れて有機材料化学科に進学しました。現在はヘルモで糖尿病関連の商品開発に携わっていますが、未知の現象に対するアプローチの仕方や、課題にぶつかったときの解決法など、最後まであきらめずに取り組み姿勢を大学で学べたことは、現在の仕事に大いに役立っています。

学生時代からどんなに小さなことでも、世の中の人々のためになることを行い、社会に貢献することが目標でした。職業柄、医療に関係する業務に関わっているため、少しずつでも目標を達成できていると思います。それでも医療に終わりはないので、一日一日の業務が、医療従事者の負担軽減や人々の命を救うことにつながるという意識を忘れず、今後も精進していきたいです。

河北 知子さん(平成19年度卒業)
テルモ株式会社 研究開発本部



化学システム工学科

Chemical Engineering

自らの考えを提案できる
ケミカルエンジニアの育成を目指す



環境とエネルギーを常に考えた科学技術者の育成

プロセスシステム工学	物質分離・循環工学
環境エネルギー化学工学	化学エネルギーシステム工学
	分子情報工学
	環境/バイオエンジニアリング

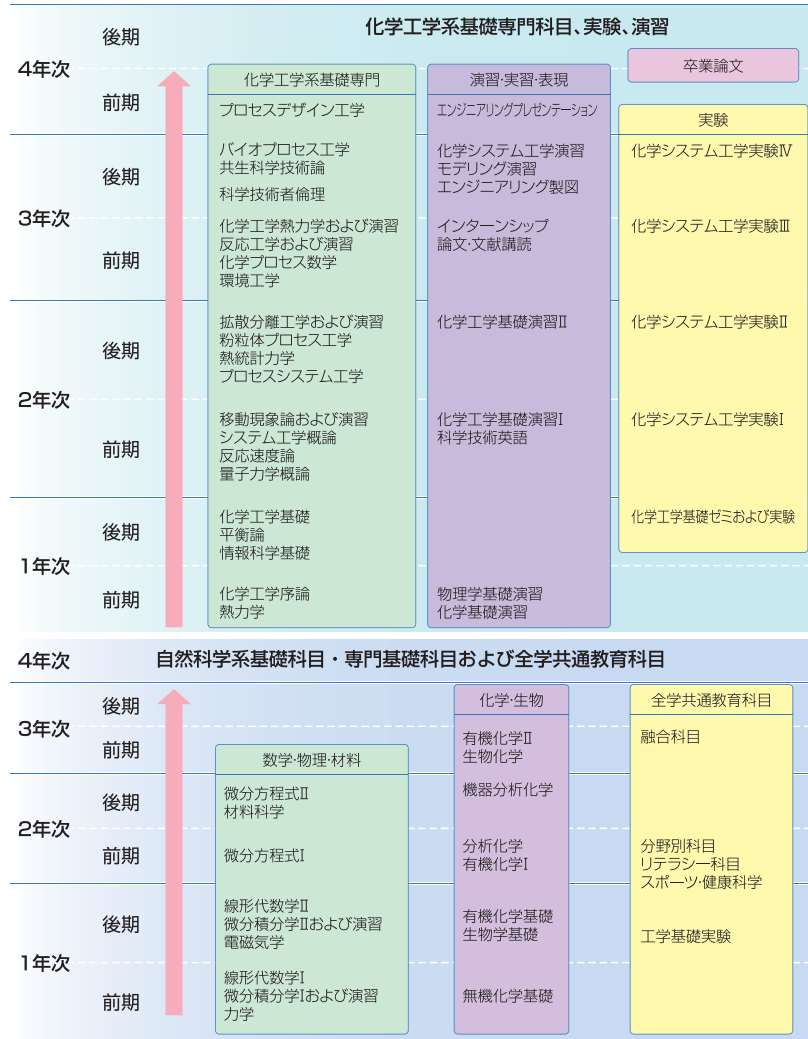
21世紀の人類にとっての理想は、循環型社会だと言われています。環境へ与える影響やエネルギーの再利用などに配慮した、製品やシステム開発が求められているのです。そこでは、市場の要求に柔軟に対応でき、製品化までの一連の業務を遂行できる化学技術者(ケミカルエンジニア)のニーズが高まっています。本学科では「What to make」に重点を置く基礎化学、応用化学、そして「How to make」に重点を置く化学工学の、両者の特徴を有機的に統合した「化学の工学」の体系に基づく教育を行っています。

「化学の工学」は化学を主とする総合工学です。したがって、新たな物質を創製する反応や触媒設計、分離・精製に関する研究から、地球にやさしい新素材開発や医薬品に関わる製造技術、そして新エネルギーの有効利用技術開発や地球環境の汚染対策などが学問および研究の対象です。

このように、化学システム工学科から、新素材、新システムの開発のみならず、地球環境に貢献できる21世紀の循環型社会を支えるケミカルエンジニアたちが羽ばたいていくのです。

また、本学科の教育プログラムは、社会の要求を満たし実施されていると、日本技術者教育認定機構(JABEE)によって正式認定された実績を有しています。これは化学システム工学科の技術者教育が国際レベルにあることの、ひとつの証です。

化学システム工学科のコースツリー



STUDENT'S VOICE

履修科目が多くて少々辛い分、視野と可能性は確実に広がります。



菟田 充華さん
4年
東京都・私立東海大学
付属高輪台高校出身

学科説明会で教授が「生分解性プラスチック」について熱く語ってくださったのが印象的でした。当時は環境について勉強したいと思っていたのですが、それがきっかけとなって、環境に関連しながらより広い範囲を学べる化学システム工学科を志望するようになりました。化学、物理、数学、生物といった基礎科目が学べますし、さらに「プラントの設計」や「触媒の開発」をはじめとする多種多様な研究分野があるので、将来の就職先の幅が広いことも魅力でした。この学科はJABEE(日本技術者教育認定機構)に認定されているのでかなり多くの科目を履修しなければなりませんし、難しい講義も多いですが、先生に質問したり、友達と図書館で勉強をしたりしながら、毎日がんばっています。好きな科目は、「反応工学」や「反応速度論」など実際のプラントで実践できそうな実用的なものです。また、これから研究を深めていきたいのは「プロセスシステム工学」に関する研究です。化学プラントの多くはパソコンとつながっていて、モニタリングやコントロールはパソコンを介して行われます。この制御や応答に最適な状態を考えるのが「プロセスシステム工学」。非常に応用範囲が広い研究分野です。

OB&OG's MESSAGE

化学と機械の両知識をそなえたプロをめざします。

化学工学の考え方は、石油化学、製薬、食品といった多岐にわたる分野で使われており、「モノづくりをしたい」という自分の夢につながると思い、大学では化学システム工学科を選びました。現在の仕事は、さまざまな化学物質を製造するプラント施設が、安全かつ安定して運転できるように管理することが主な内容。化学工学よりは機械工学分野に関する業務ですが、化学物質を製造する仕組みや基礎知識を持っていることは、非常に役に立っています。大学時代は「学んだ知識や経験を生かして、多くの人と関わりながらひとつのプロジェクトを達成する仕事に就くこと」が夢でした。この夢は現在の仕事で、ある程度達成できたと思います。いまはさらなる成長をめざし、「化学と機械の両分野の知識を有するプロフェッショナルになること」が夢です。

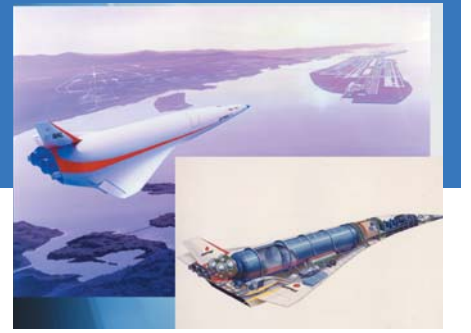
西田 健一さん(平成17年度卒業)
三菱化学株式会社 鹿島事業所 設備技術部



機械システム工学科

Mechanical Systems Engineering

機械システム工学のすべてを網羅した
30を超える個性的な研究室群



スペースシャトル想像図(写真提供:宇宙航空研究開発機構)

未来社会を見据え新たな機械システムを創造

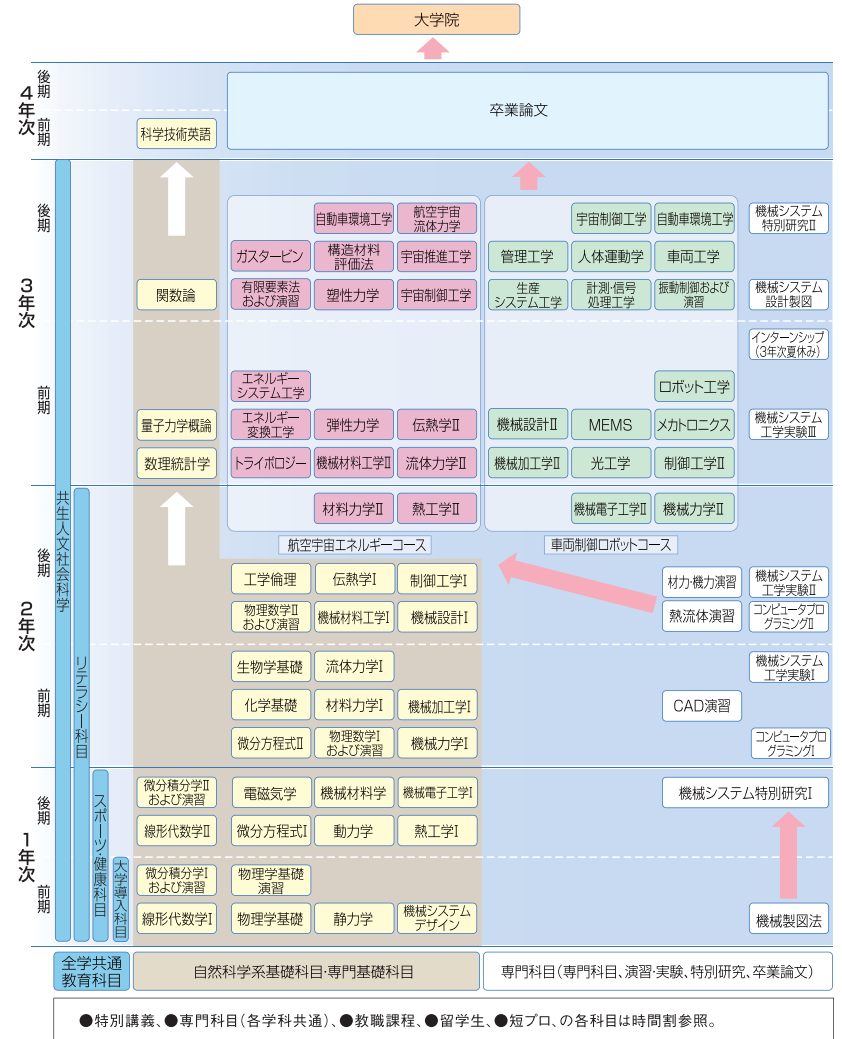
システム基礎解析	エネルギーシステム解析	流体力学	機械材料学
	材料力学	弾塑性解析	機械要素解析
設計生産システム	機械システム設計	熱流体システム設計	
	シミュレーション工学	精密計測工学	制御システム
	機械電子工学	生産システム工学	
	機械解析幾何学	機械解析代数学	機械情報工学

私たちは機械を利用し、機械に囲まれて生活しています。それらの機械を製作するのも、工作機械です。機械なくしては現代社会そのものが成り立ちません。

機械を生み出したり性能を向上させるには、知能ロボットの開発やコンピュータを利用した先端生産システムが必要となります。21世紀には、エネルギーの有効利用、地球や宇宙環境の保護、福祉システムの整備、さらには宇宙への進出などにも、機械工学の発展が欠かせないことでしょう。これからは人間と機械の調和を目指した、新しい先端技術が求められているのです。

本学科では、機械力学、熱工学、流体工学、材料工学、加工学、制御工学、情報工学などの、機械製作には欠かせない分野を基礎から学ぶことができます。また平成18年度から「デジタルものづくり教育」事業が始まり、最先端の工作機械を使い、豊富なスタッフのサポートのもとで実験、実習を行っています。30を超える研究室は、機械システムに関するハードからソフトまでの幅広い分野をカバーしています。これからの社会に必要な機械システムを創造するための、先端的で独創的な技術者・研究者を育成する理想的な環境を提供します。

機械システム工学科のコースツリー



STUDENT'S VOICE

機械システム工学科で勉強すると、身の回りの物がとても気になります。



境野 結花さん
3年
東京都立西高校出身

小学生のころ図工の授業が楽しみで、趣味でも紙工作や木工をよくやっていた。大学に進むときに、造形学科と工学科で迷いましたが、実際に人の命を守ったり、普段の生活に役立ったりするものを作る方が有意義だと考えたことが機械システム工学科に進んだ理由です。大学で学ぶうちに、身の回りの物に対する「見方」が変わりました。いままで身近にあっても疑問など全然感じなかった物に、これはどういう構造になっているのか、どこが最も壊れやすいのか、どうすれば解決するのかなど、自然と考えている自分がいるのです。それらの疑問を具現化し、実際に形にしているためには、さまざまな知識や技術が必要なので、大学で学べることはすべて吸収するつもりで勉強しています。そして将来、自分で何か「ものづくり」できるチャンスが来たときは、その時代に最も求められている物を作ってみたいです。

OB&OG's MESSAGE

小学生からの夢を実現した後も前進を続けます。

自動車開発の職業に就きたかったため、小学生のころから大学は機械系学科に進むことを決めていました。その思いが達成され、現在は自動車部品の開発、製造、販売を行う会社に務めています。主な業務内容は、自動車内装部品の開発開発業務。詳しくは自動車衝突時における乗員保護制度について、車両メーカーと連携しながら新構造の開発およびその評価手法の開発を行っています。「自動車の開発がしたい」という長年の夢は達成されたと言えます。まだまだ未熟な点が多くて勉強させられることばかりです。大学時代に身につけた「アウトプットまでの行動を計画的に組み立てて実行する」とは、私自身のモットーにもなっています。学生生活とは比べものにならない情報量に囲まれる会社生活では、計画性が最も重要であり、自らを助けると実感しています。

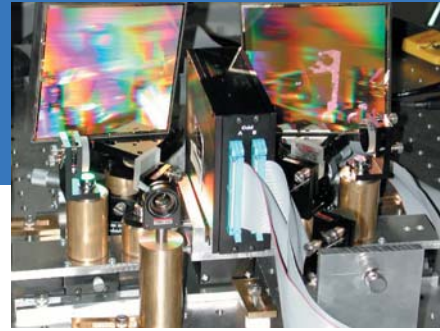
山本 泰広さん(平成8年度卒業)
カルソニックカンセイ株式会社
開発本部 実験技術グループ



物理システム工学科

Applied Physics

最先端の研究を進め、社会に革新的な
技術分野をもたらす原動力たる人材を養成



物理学をベースに科学技術の発展を目指す

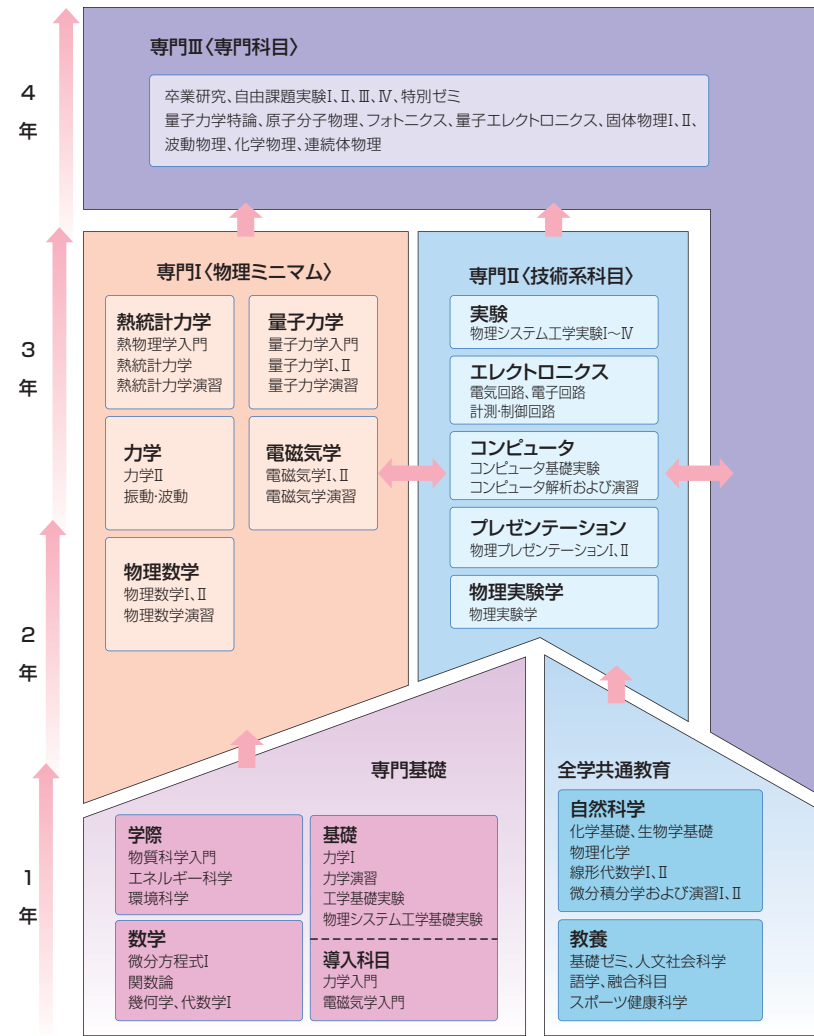
物理システム工学		
量子機能工学	原子過程工学	量子ビーム工学
量子光工学	量子電子工学	量子制御デバイス工学
光材料物性工学	生命物理工学	流体物性工学
超伝導工学		

21世紀のIT社会を支えるものとして、原子を1つずつピラミッドのように並べたICや、1つの電子で動くトランジスタ、磁気記録の動きを持つ半導体などが考えられています。そして、ここにも物理学の考え方やものの見方が活かされています。物理学は科学の基礎でありながら、画期的な技術革新を担う学問分野でもあるのです。本学科では、物理学の基礎を体系的に学び、新しい技術や素材、システムを創り出すための知識を修得し、その考え方や方法を用いて科学技術に応用できる人材を養成しています。

学びのシステムとして、まず基礎力の養成を重視します。どの専門分野を選んでも最低限理解しておきたい基礎コア科目として「力学」「電磁気学」「量子力学」「熱統計力学」の4つを選び、「力学入門」「電磁気学入門」の2つの入門科目を含め、これら4つの分野について演習と共に体系的な指導を行います。これらの科目を徹底的に理解した後に、バラエティーに富んだ教育研究分野を持つ研究室のいずれかに所属し、高度な研究を通して、より深い理解力と応用力を養っていくことができます。

また、社会に貢献できる真の研究者・技術者となるためには、自分から進んで研究課題を考え研究手法を開発してゆく、「自発的研究能力」をみがくことが重要となります。そこで本学科では、SAILプログラムを設けて、大学1年次の早期から、特別ゼミや自由課題実験、研究室体験配属などをふくむ特別な科目群を配置しています。

物理システム工学科のコースツリー



STUDENT's VOICE

“自分の実験”に2年生から取り組み、
その試行錯誤が成長につながります。



岡野 俊さん
2年
東京私立桐朋高校出身

工学部の物理システム工学科だけに、物理の知識ばかりに詳しい人や機械オタクのような人が多いと思っていました。でも実際は、いって普通の人が多いです(笑)。それでも、いろいろな目標を持った人が集まっているので、とても刺激的で、自分自身の視野も大きく広がったと思います。

本学科の科目のなかでは、とくに「自由課題実験」が特徴的。通常の実験は与えられたテーマに沿って行う受動的なものです。この授業では取り組むテーマを自分で決めて、個々が試行錯誤しながら自分自身で答えを導いていくのです。研究室に所属する4年生を待たずに、早い段階から「自分の実験」ができるので、学生もやりがいを持って取り組んでいます。まだいろいろなテーマの実験を重ねつつ、本当に自分がやりたい研究テーマを探している段階ですが、何か没頭できるテーマを早く見つけ、その研究の第一人者となることが現在考えられる大きな夢です。

OB&OG's MESSAGE

大学での研究が仕事に直接生きています。

私は高校生のころから「光技術」を扱う技術者になりたいと考えていました。光学を学ぼうと農工大の物理システム工学科に入学し、大学院時代は「レーザー光学」について研究しました。現在の仕事では、紙の製造工程で使用される検査装置をつかっており、私は新しいセンサを開発する仕事に携わっています。センサの新開発に合わせて測定原理を考え、それが使用できるかどうかを検証するのですが、ちょうど光学センサの検証を担当しており、光学を扱う仕事という希望が運良く叶えられた形です。

大学、大学院の研究室では、自分の研究について正確に分りやすく伝えることが重要だと教わり、プレゼンテーションの方法を熱心に指導していただきました。会社ではプレゼンする機会が多いので、勉強してよかったと感じています。

堀越 久美子さん(平成19年度卒業)

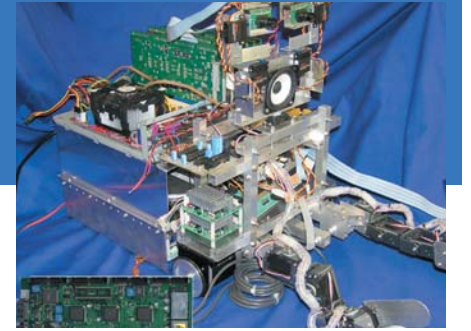
横河電機株式会社
P&Wソリューション部 新センサ開発グループ



電気電子工学科

Electrical and Electronic Engineering

最先端の研究力と豊富な教育陣で世界に誇る
日本のエレクトロニクス産業に有為な人材を輩出する



現代社会を根底から支える電気電子技術の習得

システムエレクトロニクス	基礎電気システム工学	パワーエレクトロニクス
	電気エネルギー変換工学	電子デバイス工学
	電子機能集積工学	光エレクトロニクス
電子情報通信工学	通信システム工学	知能システム工学
	情報伝達工学	回路システム工学
	画像情報工学	

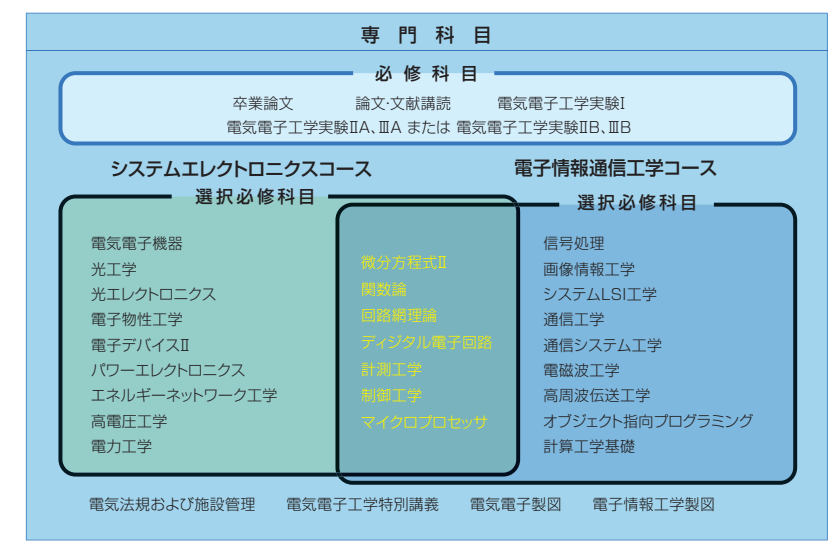
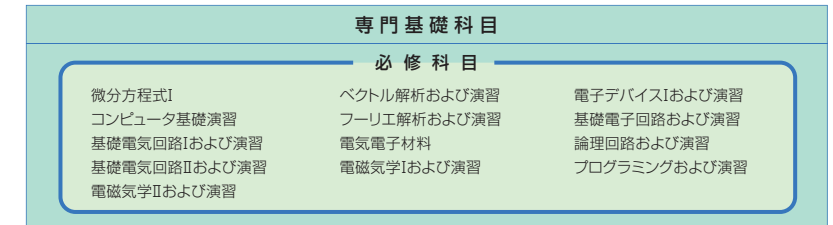
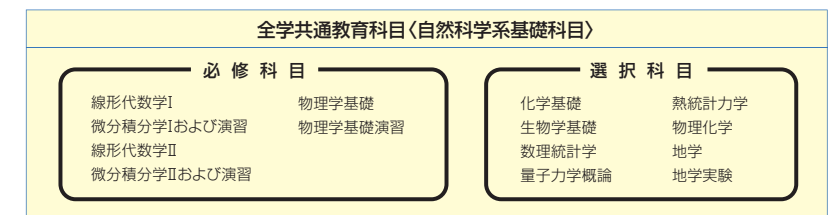
君たちの周りには、パソコン、携帯電話、デジカメ、DVD、液晶TVなど様々なエレクトロニクス製品がありますね。これらは、世界一の最先端技術をもつ日本の企業によって、開発・製品化されてきたものです。本学科を卒業した多くの先輩たちが、皆さんがよく知っている電気メーカー、光学会社、通信企業などで、この先端的な技術の開発に携わっています。このように、本学科は就職実績ナンバーワン、実質就職率は100%なのです。

本学科の特色は、何といても先端的な研究力の高さと豊富な教育陣にあります。骨太の技術者を育てるために、電気、電子、光、情報通信などの幅広い専門家を揃えてハードからソフトまで身につけるカリキュラムを用意しています。

「システムエレクトロニクスコース」では、新しい電子材料や電子デバイスの開発、環境に優しい太陽光発電、光通信やディスプレイなどの光エレクトロニクスに関する教育研究を行います。

「電子情報通信工学コース」では、携帯電話などの情報通信システム、生活を豊かにするロボット技術、コンピュータの新しい利用技術などに関する教育研究が中心となっています。

電気電子工学科のコースツリー



STUDENT's VOICE

広く求められる電気電子の技術は、
この時代でも就職に強いのが特色です。



森本 和樹さん
4年
長野工業高等専門学校出身

高専では、電気、機械、情報について勉強しましたが、なかでも「電気」に興味をひかれたので電気電子工学科に進学し、電気の知識を増やしたいと思いました。

本学科では、電気電子の基礎知識から学ぶことができます。そのことで身の回りの電化製品の仕組みや用いられている技術に対して興味・関心を持つようになり、その後の学習意欲につながりました。現在は所属研究室で、ICを製造する露光装置に使われる「リニアスライダ(電磁力でレールの上を動く)」の性能向上に努めています。

電気電子の技術は世の中から広く必要とされているので、この不況のなかでも就職に強いのが魅力のひとつ。私の研究室では、メカトロニクス(機械装置に電子工学を融合した技術)が研究対象なので、将来もメカトロニクスに関わりを持つ技術者として働けたら良いと思います。そのためにも、まずは大学院に進学し、いまの研究を引き継ぎ、さらに知識を深めたいと思います。

OB&OG's MESSAGE

人の健康に役立つ仕事はやりがいがあります。

普段の生活ではあまり目にする機会が少ないと思いますが、私の会社では、病院で血液検査をした際に、その血液の分析を行う機械を作っています。私自身はソフトウェアを作る部署に所属し、機械をどのように動かせば早く効率的に血液の分析ができ、操作しやすく、安全性も向上できるかを検討しています。学生時代からずっと「自分の周りの人たちの健康に貢献したい」と考えていたので、自分が関わった製品がひとつ、またひとつと発売されることに、少しずつでも「貢献できているかな」と実感するようになりました。

大学の研究室では留学生と交流したり、海外の学会で発表したりなど、いろいろな経験ができました。仕事でも海外の方と話す機会があり、外国語はとても役立っています。また人に伝えるためのプレゼンテーション技術を磨けたことも助かりました。

上妻 美帆さん(平成19年度卒業)
ベックマンコールター株式会社



情報工学科

Computer and Information Sciences

時代を牽引する最先端の 情報工学技術を身につけた人材を養成



ユビキタス社会の快適な情報環境を構築

情報工学	数理構造 問題解決工学 知能獲得工学
	計算機システム工学 システム評価設計工学
	サイバネティックシステム工学 広領域情報ネットワーク工学
情報環境工学	知能メディア処理工学 認識対話工学 仮想空間創造工学
	言語システム工学

《創・造・作》の教育方針

工学とは、ものを“つくる”学問です。私達が“つくる”ものは、情報システムです。より優れた情報システムを創り出し、造り上げていく能力を持った人材を世に送り出すことが当学科の使命です。1・2年次で履修するコア科目では、講義と対応した演習・実験と併せて新しい情報システムを創るための基礎知識を徹底的に学びます。3・4年次では「計算機システム」「数理知能」「情報メディア」の科目群から、学生が自分の将来像に合わせて選択、履修し、より専門的な知識を身につけます。情報システムの設計能力は、知識だけでは得られません。理論に基づき、自らシステムを設計し作って動作させてみて、その経験をフィードバックする、この繰返しによってはじめて得られるものです。そのため実験、演習を最も重要視しています。学生が実験、演習を通じて“作”を繰り返し、“創・造”する誇りと喜びを見だし、その能力を獲得していけるよう、情報工学科は努めています。

STUDENT'S VOICE

プログラミングも知らなかった自分が、
エンジニアをめざすまでに成長できました。

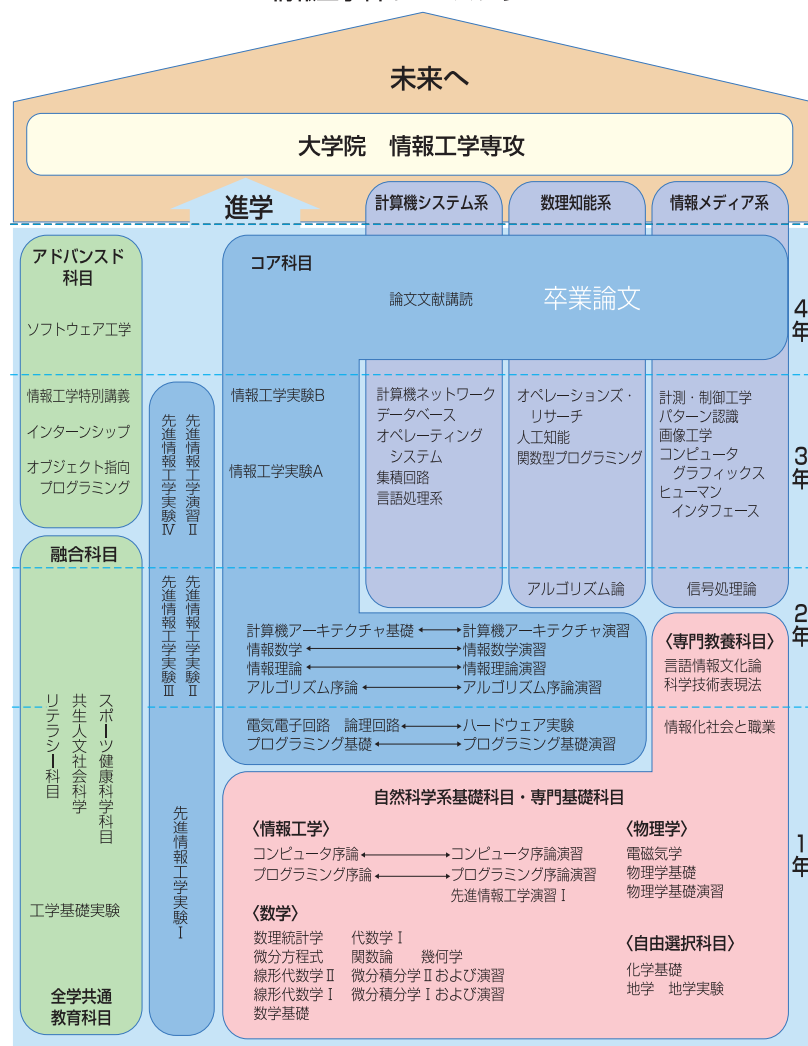


佐伯 碧さん
3年
東京都立立川高校出身

進路を悩んでいた時期に、ごく身近に当たり前のよう存在するコンピュータが一体どのような原理で動いているのか、内部の構造はどうなっているのか全く知らないことに気がきました。この思いが情報工学科へ進学するきっかけです。プログラミングの経験もない自分が、大学の授業についていけるか不安でしたが、基礎から学べるカリキュラムのおかげで大丈夫でした。

実験の一環としてペアで取り組む「システム製作実験」がとても楽しく、ためになります。先生の指導のもと、製作するシステムを決めるところから、発表レポート作成までをトータルに体験しますが、作業を分担する上でのコミュニケーションの取り方や、完成に向けた段階的なタスクの設定、そしてプレゼンテーションなど、システム開発に必要な実践的な能力をすべて養えます。これらの体験を通じて、入学時は何も知識がなかった私が、卒業後はシステム開発に関わりたいという目標を持てるようになりました。

情報工学科のコースツリー



OB&OG's MESSAGE

情報工学は現代社会に欠かせない領域です。

現在の所属部署では、企業向けセキュリティシステムの開発を行っています。また、システムを構築する際に必要となる、組み込みシステムの開発、ネットワークシステムの開発、各種センシングデバイスの開発など、多岐のジャンルにわたる開発も主要業務です。それらのなかで私は、システム仕様の検討および全体の統括管理に携わっています。

私は大学時代、ヒューマンインターフェースを中心にパーソナルリアリティから福祉工学まで幅広い領域の研究を進めていました。いずれも「システムの構築」という観点での研究だったため、各技術課題に対するアプローチの方法や、開発に至るまでの問題点の解決手法など、そのまま業務に直結している点は数多くあります。情報工学の分野は、現代の社会に欠かせないものであることを日々の仕事を通じて実感しています。

加藤 俊輔さん(平成16年度卒業)
セコム株式会社 技術開発本部



TOPICS

農工両学部より、
最新の話、情報をお届けします。

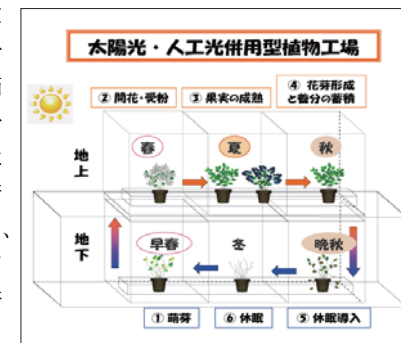
農学部

THE FACULTY OF AGRICULTURE

植物工場「ブルーベリー・キャンパスファクトリー」

ブルーベリーの研究は、故・岩垣駿夫(いわがき はやお)先生(元本学農学部教授)によって始められました。その後、本学卒業生によって商業栽培や栽培技術の普及が進められてきました。近年では抗酸化作用が高く健康に良い果実として注目が集まり、生産量および輸入量が急激に増加し、需要に対する供給が不足している状況です。そこで、ライフサイクルを早めて年間収量を高め、価格が高騰するオフシーズン時も供給ができる「植物工場」モデルの実現を目指します。

この施設は、四季を再現した部室を作り、鉢植えのブルーベリーが地上1階の「春」、「夏」、「秋」の部屋から地下1階の「晩秋」、「冬」、「早春」の部屋を移動します。各部屋の環境を制御して、高付加価値果実の周年生産を行い、モニタリングにより樹体健康管理技術を確認します。さらに、自走式植物ポットの開発による自動化の研究も行います。

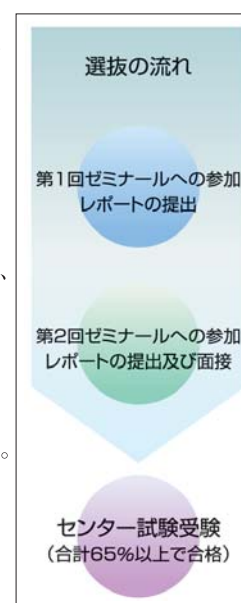


環境資源科学科

平成22年度入試から ゼミナール入試(AO入試)をスタート

環境資源科学科では、平成22年度入試から、ゼミナール方式の集中講義及び実験教室を通じて、一般入試では計ることがむずかしい専門分野への適性、意欲、目的意識、コミュニケーション能力、基礎学力などを総合的に評価するAO入試をスタートしました。

この入試では、積極的に理科を志向し、かつ理科に適性を持ち、環境資源科学分野に強い興味と熱意を示すとともに研究を志向し、これを遂行できる素質のある人材を求め、将来、第一線で活躍する研究者に育てることを目標としています。そのため、学科教育を通じて、研究を行うに当たって必要な能力である豊かな洞察力、鋭い探究心及び強いリーダーシップをもった学生を育成します。



工学部

THE FACULTY OF ENGINEERING

物理システム工学科&情報工学科

平成23年度入試から SAIL入試(AO入試)をスタート

物理システム工学科および情報工学科では、それぞれ自然科学および情報科学に関する特別な活動成果を持つ高校生の中から、活動成果のレポートや面接などの成績、さらに調査書等の内容を主な資料として総合的に評価するSAIL入試(AO入試)を実施します。

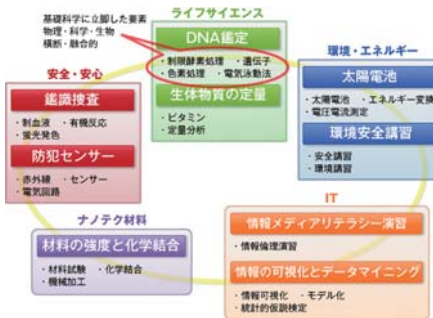
SAIL入試とは、科学者・技術者としての船出(SAIL)に必要な4つの能力、学習力(Study)、分析力(Analysis)、企画設計力(Innovative Design)、論理的発信力(Logical Presentation)を身につけるための特別プログラムに沿った教育を受ける学生を選別する入試制度です。

物理学を基礎から体系的に学び、論理的思考能力をつちかうことで、さまざまな工学的課題の解決を実践的に展開させる能力を習得すること(物理システム工学科)、計算とコンピュータの原理、アルゴリズムとプログラムの本質を基礎から学び、手順的・論理的な思考能力をつちかうことで、数理的手法を用いて工学的課題の解決、システム構築をはかる能力を習得すること(情報工学科)に対する強い意欲を持った学生の応募を歓迎します。



初年次教育として 「工学基礎実験」を実施

工学部では、全学科の1年次生を対象として全学科の専門分野を横断的に実践実施する「工学基礎実験」を必修科目として実施しています。工学基礎実験は、物理・化学・生物および情報、安心安全、環境などを複合させた実験項目にしたがい、理系系大学に必要な「様々な分野を融合させた真のサイエンスに触れる」ことを目的としています。将来、専門領域を深化させるために何が必要なのかを実験を通じて理解してもらい、複雑に深化する科学技術社会において、持続的発展に貢献できる人材を育成することがねらいです。具体的には、環境分析、生体物質の定量、鑑識捜査、DNA鑑定、データマイニング、太陽電池、防犯センサー、情報可視化などが実験のテーマです。



大学院 日本から世界を動かす大学を目指し、最先端の教育研究を……

大学院は、学部での基礎知識を活かし、自らが研究の目標を定め、研究課題を見つけ出し、研究課題に対して解決方法を探し出す能力を磨きます。また、研究課題についてのコミュニケーションあるいは発表能力を身につけるトレーニングを行います。本学の大学院には、3学府(工学府、農学府、生物システム応用科学府)と2研究院(農学研究院、工学研究院)および研究科として連合農学研究科があります。なお、学府、研究科とは学生が所属する教育組織、研究院とは教員が所属する研究組織で、平成16年4月に大学院重点化大学として組織再編し設置されました。また、獣医学科の卒業生は、本学も構成大学となっている岐阜大学連合獣医学研究科に進むことができます。

学府

工学府 博士前期課程・博士後期課程

工学府は、博士課程(前期課程2年(修士号を取得)、後期課程3年(博士号を取得)の大学院として設置され、柔軟な発想力と確かな知識を持ち、独創的なモノ作りができる学生の育成と、高い倫理観と本質を見抜く卓越した能力を持つ技術者・研究者の育成を目指しています。企業や外部研究機関との共同研究の件数、新聞社による研究力調査などでは、全国の国立大学のなかでもトップクラスの評価を得ています。前期課程には、生命工学、応用化学、機械システム工学、物理システム工学、電気電子工学専攻、情報工学の6専攻が、後期課程には、生命工学、応用化学、機械システム工学、電気情報工学の4専攻が設けられており、大学院生は

所属する専攻の講座で学ぶことにより、工学の高度の専門生を身につけます。また、他の専攻や企業などとの連携や共同研究において、横断的・学際的な研究に取り組むこともできます。工学府は社会にも広く開かれた学びを展開しており、企業や研究機関に所属する研究者なども大学外で就業しながら博士後期課程を修了することができます。さらに、平成23年度4月から、「産業技術専攻」が設置され、産業技術分野として、生命、化学、機械、情報工学を選定し、技術経営に習熟するとともに、それぞれの最先端の科学技術分野に精通した、国際競争力のある産業技術イノベーションを推進する技術経営人材(技術経営修士(専門職))の育成を行います。

博士前期課程	生命工学専攻 応用化学専攻 機械システム工学専攻 物理システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報工学専攻
博士後期課程	生命工学専攻 応用化学専攻 機械システム工学専攻 電子情報工学専攻
	産業技術専攻(専門職学位課程)

農学府 修士課程

昭和40年に6専攻で発足した農学府は、その後の農学部との充実に伴い、現在は、生物生産科学、共生持続社会学、応用生命化学、生物制御科学、環境資源物質科学、物質循環環境科学、自然環境保全学、農業環境工学、国際環境農学の9専攻に改組され、各専攻には、それぞれ複数の教育研究分野等が配置されています。2年間の課程では、附属施設での実験などに取り組みながら、修士論

文のテーマに沿った研究を進めます。修士課程を修了した後は、連合農学研究科博士課程への進学も拓かれています。獣医学科に対応する修士課程はありませんが、学部(6年)を卒業すると、岐阜大学に設置されている連合獣医学研究科博士課程に進学することができます。

修士課程	生物生産科学専攻 共生持続社会学専攻 応用生命化学専攻 生物制御科学専攻 環境資源物質科学専攻 物質循環環境科学専攻 自然環境保全学専攻 農業環境工学専攻 国際環境農学専攻
------	--

生物システム応用科学府 博士前期課程・博士後期課程

生物システム応用科学府は、基礎科学を学びつつ、農学、工学、理学の学際領域を融合した新しい科学を展開している大学院で、生物システム応用科学専攻と早稲田大学との共同専攻である共同先進健康科学専攻の二つの専攻からできています。研究対象領域は、生物の機能や特質を応用したメカトロニクス、ロボティクス、情報処理、画像確認、知的システム、医療、創薬、食品、環境、電気、有機合成、光化学、ナノ粒子、新素材などの研究領域から、生物そのものを対象とし、生物の分子レベルから

生態系レベルまでを取り扱う研究領域まで、研究領域は幅広く、しかも専門性に富んでいます。本学府は、平成7年の設立当初から、「ベンチャーの薦め」などのユニークな授業を開講し、深い洞察力と広い視野を持ち、しかも起業マインドを備えた研究者、技術者の養成を目指しています。さらに、優秀な学生に対する修業年限の短縮、社会人や留学生の積極的な受け入れ、様々な産業との連携、共同研究、国際的な大学間交流など、新しい科学技術を創造するための取り組みを進めています。

博士前期課程	生物システム応用科学専攻 物質機能システム学専修 生体機構情報システム学専修 循環生産システム学専修
博士後期課程	生物システム応用科学専攻 共同先進健康科学専攻 (早稲田大学との共同専攻)



研究科

連合農学研究科 博士課程

連合農学研究科は、本学、茨城大学及び宇都宮大学の大学院農学研究科(農学府)修士課程を母体として編成された博士課程のみの大学院です。連合農学研究科においては、広い視野から生物生産科学、応用生命科学、環境資源共生科学、農業環境工学、農林共生社会科学に関する高度な専門知識、理解力、洞察力、実践力を獲得できる創造的で機能性に富んだ教育を追求し、総合的判断力を備え、国際社会に貢献できる高度専門職業人や研究者を養成しています。本研究科の特徴は、

3大学の連携の下、学生1名に関係分野の教員3名を指導教員として配置し、大学の枠をこえた濃密で効率的な研究指導体制をとっていることです。平成14年度からは、企業等で活躍している方を社会人そのまま大学院生として受け入れる「社会人特別選抜制度」を導入し、広く社会人にも門戸を広げています。また、本研究科では、全学生の約3割がアジア、中東、東欧、アフリカ、南米からの留学生で占められており、国際色豊かな大学院です。

博士課程 (後期3年)	生物生産科学専攻 応用生命科学専攻 環境資源共生科学専攻 農業環境工学専攻 農林共生社会科学専攻
-------------	--

岐阜大学大学院連合獣医学研究科 博士課程

獣医学科の卒業生は、本学も構成大学となっている岐阜大学に設置されている獣医学の大学院博士課程(修業年限4年)に進むことができます。基

礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学のうちの1つに所属して研究を進めます。

博士課程 (4年)	獣医学専攻
-----------	-------

Student's Message

工学府

「有機EL」のような革新的な有機材料を開発したい。

「ロジウム」という金属を使って「ヘリセン」というらせん状の構造を持つ分子を合成する研究をしています。「ヘリセン」にはらせんが右巻きと左巻きの光学異性体が存在しますが、これを作り分ける方法を検討しています。この新しい合成方法を確立して、これまでにない面白い構造を持つ「ヘリセン」を合成することが目標です。将来は、こうした有機合成の知識を使って新しい材料の開発を行いたいです。例えば、新しいディスプレイの材料として注目されている「有機EL」のように、革新的な製品の開発に関わりたいと思います。



府川 直裕さん
応用化学専攻 2年
東京都立川高校出身
(東京農工大学工学部卒業)

農学府

社会への貢献に直接つながる研究だと自負しています。

さまざまな造成緑地において、後継樹の生育量や樹種、植物種の組成を調べ、その場所の造成年代や植栽方法、光や土壌などの環境との対応関係を明らかにすることで、造成した緑地を「自然林」に近づける方法について考察しています。以上の確認を通して、現在ある緑地の生物多様性を向上させたり、より効率的な緑地の造成を提言したりできるはずです。



近藤 一樹さん
自然環境保全学専攻 1年
東京都・私立芝高校出身
(東京農工大学農学部卒業)

生物システム応用科学府

豊富な研究成果発表の場が、自分自身の成長につながります。

大学では4年生の1年間しか研究室に入れないので、もう少し研究に取り組みたいと思い大学院に進みました。研究室ではポリフェニレンビニレンというポリマー(重合で生じた化合物)を主鎖とした「グラフト共重合体」の合成と発光特性の評価を行っており、卒業までに研究成果の論文を書き上げる予定です。

論文もそうですが、生物システム応用科学府では、学内発表の機会が多くあります。大学院の2年間でテーマ



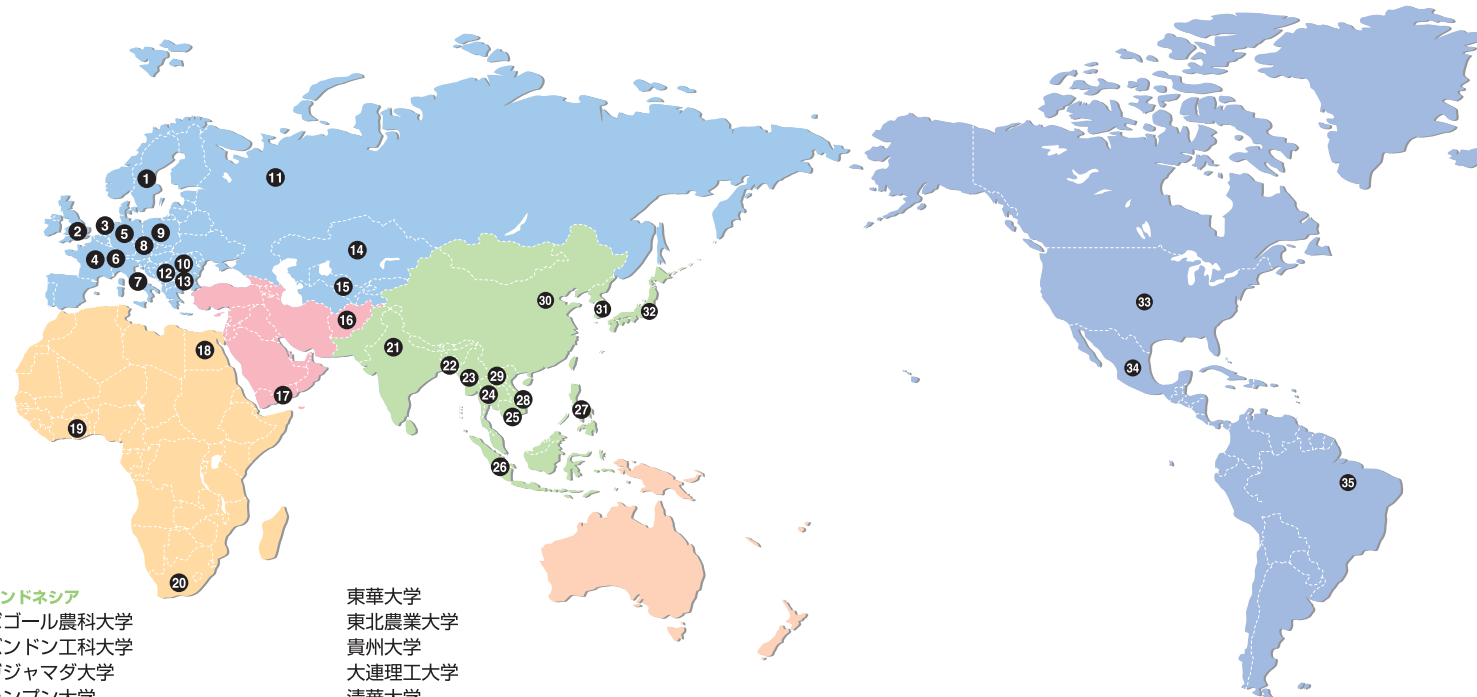
船津 加央里さん
生物システム応用科学専攻 2年
東京都・私立青山学院高等学校出身
(東京農工大学工学部卒業)

グローバルキャンパス 知的好奇心の翼が世界へはばたく ……グローバルに広がる、農工大のネットワーク

姉妹校協定

世界各国の大学で学ぶチャンスがあります

本学は、アジア48校を筆頭に、世界各国約80の大学・研究機関（2011年1月31日現在）と姉妹校協定を締結。活発に学生交流を展開しています。姉妹校への交換留学は、原則として留学先の大学に入学金や授業料を別途支払う必要はありません。また、一定の条件を満たす学生に対しては、留学先の大学から奨学金を受けられる短期留学推進制度（派遣）も設けています。なお、留学に関する詳しい情報の入手や相談は、本学「国際センター」で受け付けています。



- 1 **スウェーデン**
スウェーデン王立工科大学
- 2 **イギリス**
ブライトン大学
- 3 **オランダ**
デルフト工科大学
エラスムス大学国際経営大学院
- 4 **フランス**
J.フーリエ グルノーブル第 I 大学
ポー大学
- 5 **ドイツ**
アーヘン工科大学
- 6 **スイス連邦**
スイス・パイオインフォマティクス研究所
- 7 **イタリア**
ローマ大学
- 8 **チェコ**
チェコ工科大学
- 9 **ポーランド**
ジャギロニア大学
ポーランド日本情報工科大学
ルブリン大学
- 10 **ルーマニア**
ティミショアラ工科大学
- 11 **ロシア**
バシフィック・ナショナル大学
モスクワ大学理学部
- 12 **セルビア**
ベオグラード大学
- 13 **ブルガリア**
トラキア大学
- 14 **カザフスタン**
国立カザフ民族大学
- 15 **ウズベキスタン**
国立ウズベキスタン大学
- 16 **アフガニスタン**
カブール大学
- 17 **イエメン**
サヌア大学
- 18 **エジプト**
スエズカナル大学
ベンハー大学
- 19 **ガーナ**
ガーナ大学
- 20 **南アフリカ**
南アフリカ農学研究協議会
- 21 **インド**
コルカタ大学
- 22 **バングラデシュ**
スタムフォード大学
- 23 **ミャンマー**
イェンジン農業大学
- 24 **タイ**
チュラロンコン大学
カセサート大学
キングモンクット工科大学トンブリ校
マヒドン大学
泰日工業大学
チェンマイ大学
マハナコーン工科大学
- 25 **カンボジア**
カンボジア工科大学
カンボジア王立農業大学

- 26 **インドネシア**
ボゴール農科大学
バンドン工科大学
ガジャマタ大学
ランブン大学
インドネシア技術評価応用庁
- 27 **フィリピン**
ビサヤ州立大学
- 28 **ベトナム**
カントー大学
フエ大学
ハノイ理工大学
ホーチミン市工科大学
ホーチミン市科学大学
- 29 **ラオス**
ラオス国立大学
- 30 **中国**
上海理工大学
浙江大学
北京林業大学
南京林業大学
華東理工大学
中国農業大学
雲南農業大学
雲南民族大学
東北林業大学
瀋陽農業大学
南京農業大学
南開大学
- 31 **韓国**
建國大学校
忠北大学校
慶熙大学校
韓国農村経済研究院
済州大学
- 32 **日本**
国連大学
- 33 **アメリカ合衆国**
ニューヨーク州立大学バッファロー校
バデュー大学
ハワイ大学マノア校
カリフォルニア大学サンタバーバラ校
カリフォルニア大学デービス校
ケンツ州立大学
ヒューストン大学
- 34 **メキシコ**
チャピンゴ自治大学
- 35 **ブラジル**
パウリスタ総合大学
- 東華大学
東北農業大学
貴州大学
大連理工大学
清華大学
北京郵電大学
ハルビン工業大学
市政環境工程学院
上海交通大学機械工学院
中国計量学院
中国環境科学研究院

国際センター

国際センターでは、国際化戦略、国際交流に関する情報発信、諸外国との教育研究活動の交流の支援、さらには海外留学のための情報提供や指導・相談、外国人留学生のための日本語や日本語事情の教育、生活指導・相談を行っています。



国際交流会館（府中・小金井）

世界各国から東京農工大学にやってきた外国人留学生や研究者のために、居住スペースと教育研究上の交流の機会を提供するための施設です。



小金井国際交流会館

府中国際交流会館

留学を経験したことによって、異文化への興味がさらに強まりました。

1年生の夏季休暇を利用して、イギリスのブライトン大学に約2週間の留学を経験しました。英語の生まれ故郷であるイギリスには以前から憧れがあり、「本場」の空気を感じることが楽しみでした。現地では大学の学生寮で生活し、平日は大学に通って授業を受け、休日は街を散策するなどして過ごしました。何をしても日本との文化の違いを感じる毎日。日本という国を客観的に見つめられると同時に、日本人である自分自身のアイデンティティを強く感じました。今回の留学で得られた最大のものは新たな出会いです。交換留学で知り合った私のほか4人の日本人学生と5人のイギリス人学生たちとは、留学期間終了後もインターネット等を通じて連絡を取り合っています。日本にいただけでは得られなかったはずの考え方、物事への視点、そして仲間のつながりを今後の生活に生かそうと思います。



Student's Message

留学制度

岩崎 佳生理さん
農学部
地域生態システム学科
1年
長野県長野市高野高校出身

他大学の授業と学生たちに触れ、大いに刺激を受けることができました。

自分の学部学科以外の授業を受けることで視野が広がると考え、単位互換制度を利用しました。例えば東京学芸大学で受けた経営学関係の授業は、農工大では受ける機会のないものなので、とても面白かったです。100人以上の学生を相手にした授業も自分の学科では考えられないので新鮮でした。また、電気通信大学では宇宙通信工学について学びましたが、こちらは集中講義でもあり、いろいろな大学から単位互換制度を活用した学生が受講していたため新しい交流が数多く生まれました。農工大以外の大学に行く機会もあまりないので、他大学の雰囲気を感じるだけでも良い経験です。他大学の授業や学生たちに刺激を受けることで、自分自身の研究にも積極的に取り組もうとの気持ちにもなりました。



Student's Message

単位互換制度

澤村 志遠さん
工学部
物理システム工学科
3年
東京都立府中東高校出身

単位互換制度

多摩地区の国立4大学を中心としたキャンパスで学べる

多摩地区にある国立4大学（東京外国語大学、東京学芸大学、電気通信大学、一橋大学）をはじめ、東京海洋大学*、長岡技術科学大学*、琉球大学*と単位互換制度を結んでいます。キャンパスの枠をこえた多彩な履修機会を提供し、学生の学びへの意欲を積極的にサポートしています。

*印は多摩地区国立5大学単位互換制度ではなく、本学が独自に単位互換を実施している大学です。



学部		大学院	
東京農工大学	東京海洋大学** (海洋工学部のみ)	東京農工大学	
東京外国語大学		東京外国語大学	
東京学芸大学	長岡技術科学大学*	東京学芸大学	
電気通信大学	琉球大学*	電気通信大学	
一橋大学		東京海洋大学*	

**東京海洋大学(海洋工学部)との単位互換は工学部のみとなります。
*印は多摩地区国立5大学単位互換制度ではなく、本学が独自に単位互換を実施している大学です。